

4月の県内景況は、消費税増税の影響は薄れてきたが、円安による原材料値上げ等の影響が多く、業種で収益を圧迫している。

情報連絡員による平成27年4月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は15.0%（前月比-2.0）となっており、「横這い」は40.0%（同-2.4）、「低調」とするところが45.0%（同+4.4）、業界全体の「景況感DI」は-30.0（同-6.3）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「取引条件」「収益状況」「設備操業度」「雇用人員」の項目において前月と比較して改善しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、建設業は「晴れ」、食料品製造業、繊維製品製造業、鉄工機械製造業、その他製造業、卸売業、小売業及びサービス業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種はすべて「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が20.0%（前月比-0.3）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答12件）（製造業6、非製造業6）。また、変わらないが、55.0%（前月比-6.0）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、25.0%（前月比+6.3）と増加しております。

平成27年4月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率100%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	☀️ 28.57	☁️ -14.29	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -42.86	☀️ 14.29	☀️ 14.29	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -28.57
繊維製品製造	☀️ 33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☀️ 33.33	☁️ 0.00	☀️ 66.67	☀️ 66.67	☀️ 33.33	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00
木材木製品製造	☁️ -50.00	☁️ -50.00	☁️ -50.00	☁️ -50.00	☁️ -75.00	☁️ -75.00	☁️ -75.00	☁️ -75.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ -50.00	☁️ -75.00
鉄工機械製造	☀️ 20.00	☁️ -40.00	☁️ 0.00	☀️ 20.00	☁️ 0.00	☁️ -20.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -20.00	☁️ -40.00	☁️ 0.00	☁️ -20.00
その他の製造	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 14.29	☀️ 14.29	☁️ -14.29	☁️ -14.29	☁️ -14.29	☁️ -14.29	☀️ 14.29	☁️ 0.00	☁️ -14.29	☁️ -14.29
卸売業	☀️ 25.00	☀️ 50.00	☀️ 50.00	☀️ 50.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00
小売業	☀️ 33.33	☁️ 0.00	☀️ 22.22	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -11.11	☁️ -11.11	☁️ -11.11	☁️ -11.11	☁️ -22.22	☁️ -22.22	☁️ -11.11
商店街	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ 16.67	☁️ 0.00	☁️ -33.33	☁️ -50.00	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -16.67	☁️ -33.33
サービス業	☀️ 42.86	☁️ -28.57	☀️ 14.29	☀️ 14.29	☀️ 28.57	☁️ -28.57	☀️ 14.29	☁️ -42.86	☀️ 28.57	☀️ 14.29	☁️ 0.00	☁️ 0.00
建設業	☁️ -20.00	☀️ 20.00	☁️ 0.00	☀️ 20.00	☁️ -20.00	☀️ 20.00	☁️ 0.00	☀️ 20.00	☁️ -20.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☀️ 20.00
運輸業	☁️ -100.00	☁️ -66.67	☁️ 0.00	☀️ 66.67	☁️ -66.67	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ -33.33	☁️ -66.67	☁️ -33.33	☁️ -33.33

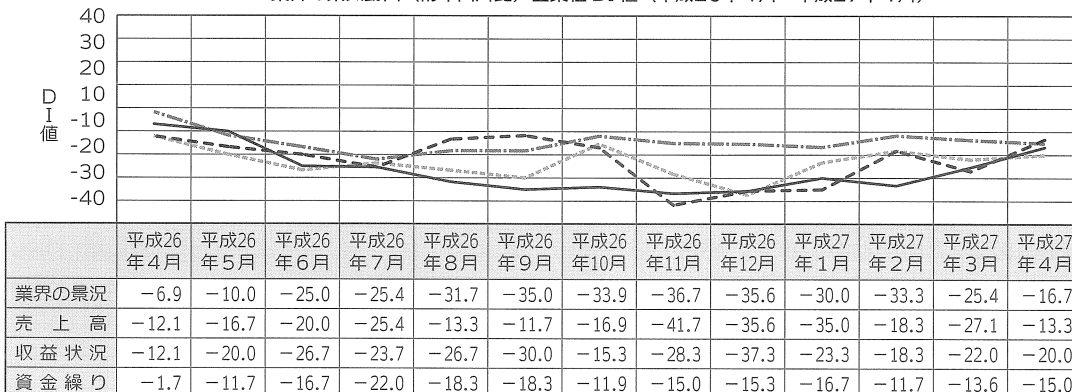
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- ☀️ 快晴 30以上
- ☀️ はれ 10~30未満
- ☁️ うすぐもり -10~10未満
- ☁️ くもり -30~-10未満
- ☁️ 雨 -50~-30未満
- ☁️ 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成26年4月～平成27年4月）



食料品製造業

<漬物>

昨年消費税増税が4月より実施され、売上が厳しくなったが少しずつ消費税の影響が薄れているように思われる。しかし円安による原料、添加物等の値上げが売値に転嫁されず、各社利益が圧迫されているのが現状。

<味噌醤油>

円安の影響は、原料や副材料などを含め、調味料・添加物等にも価格高騰が相次ぎ、売上げも伸びず、味噌醤油の出荷量も低迷状況が続いており、組合員は風評と製造コストアップの厳しい現状が続いている。

<菓子>

今年は桜のピークの時期に天気が悪く、花見関係の需要に影響がみられた。組合員が減少する中で製品の生餡という特殊な製品の販売量を伸ばすのは非常に困難だが、製品の品質をあげるにより、組合員の売り上げ増を支援し組合の経営状態の改善を目指したいと考えている。県組合としても組合員数の減少により取り扱い手数料などが減り、収益は悪化している模様。

<乾麺>

4月に政府麦価改定（平均3%の値上げ）があり、それにより7月から粉価の値上げがある。強力粉で25kg45円、中薄力粉で125円の値上げ。今回の値上げは米国のウエスタン・ホワイト（薄力系）の小麦の不作によるものだが、全体的には円安によるものが大きい。1月のそば粉の値上げと7月から的小麦粉の値上げなどの原価の上昇で、輸出企業とは対照的に地方の中小企業の経営は厳しくなる。

<酒造>

全体的に低調（前年比80%）。デスティネーションキャンペーンでどれだけ盛り上げられるか心配だ。海外の対応も厳しくなっている。

<食品団地>

前年度の消費税増税時より、消費動向は上向いたが地方全体の消費は依然低迷しており、特に食品・小売業界は年明けからの値上げで伸び悩んでいる。その中で、6月までの大型キャンペーンで多くの方に来県いただき、身近に感じてもらうことが今後の展開にも繋がると思われる。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の受注前倒しが大量にあり、例年より早く動き出している。

<縫製品>

慢性的な人員不足で雇用対策に苦戦している。

木材・木製品製造業

<製材業>

住宅着工の減少により、製材品相場はさらに下落しており、先安観もあり、原木丸太は必要なものを当面手当てするだけとなっている。このため、原木丸太価格も下落が続いており、底が見えない状況。材質が落ちる梅雨時期にかけて一段安となる恐れもある。

<外材輸入>

製材品の荷動きは低迷したまま推移している中、産地価格の値下げ及び国内市況のジリ安が表面化。工場在庫はコスト高のままであり、採算的に厳しい状況が続いている。

<木工家具>

国内、主要各メーカーが5月より10%~15%の値

上げ。原材料、経費等の値上りによるものだが、販売価格の改定によるモノの動きが心配である。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

原発事故以来風評被害により経営が行き詰まり、廃業、転業するところが相次ぎ厳しい状況が続いている。今後ますます業界の過当競争が厳しさを増し、経営統合など業界再編の動きが出る可能性があり、個々の経営判断が非常に重要になってくると思われる。

印刷業

<印刷>

2月からの大手製紙会社の10%以上の値上げを印刷会社が受入れ、これから各社が価格にどう転嫁（値上げ交渉）していくかが大きな課題である。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 約18%の減
2. 当月売上高の昨年同月比 ±0%
3. 今年度累計の昨年対比 ±0%
4. 原因・状況 新年度に入り、土木工事等からの注文は少なかったが、放射線除染関連の出荷があり、前年並みの出荷となった。

<生コン>

平成27年4月の組合員生コン出荷数量は、176,059m³と対前年同月比18.2%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比7.0%の減、官公需が51.7%の増であった。

■民需の動向

対前年同月比 7.0%の減

① 対前年同月比増加地区

<白河地区> 4.2%の増

工場・倉庫新築工事、トラックターミナル建設工事等

<いわき地区> 32.1%の増

いわき物流センター建設、工場増設工事、マンション新築工事等

② 対前年同月比減少地区

<県北地区> 23.7%の減

マンション、高齢者福祉施設新築工事等

<県中地区> 14.1%の減

マンション新築工事、工場増築工事等

<相双地区> 26.2%の減

原発保安対策工事、広野火発消波ブロック工事等

<会津地区> 2.2%の減

会津オリンパス、会津中央病院工事等

■官公需の動向

対前年同月比 51.7%の増

① 対前年同月比増加地区

<県北地区> 14.7%の増

霊山トンネル、医療科学センター、復興公営住宅新築工事等

<県中地区> 60.6%の増

環境創造センター、郡山市ポンプ場、復興公営住宅建設工事等

<いわき地区> 11.6%の増

港湾災害復旧工事、復興公営住宅建設工事等

<相双地区> 127.3%の増

モックアップ施設、浪江町減容化施設工事、海岸復旧工事等

<会津地区> 4.8%の増

鶴城小学建設工事、市町村合併支援道路工事等

② 対前年同月比減少地区

<白河地区> 20.7%の減

表郷消防署、矢祭小学校建設工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、新年度に入って新予算に基づき引合い物件が若干増加傾向にあり、売上高も前月比13%と増加したが、前年同月比では約40%と低調で、先行に不安感を感じられる状況である。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

4月は暖かい日が続いたせいか、消費者の購買意欲も幾分上がったようだ。このため一般消費財については、全体的にやや好調であった。ただし、季節商材の売上については、目立った動きは感じられなかった。業務用卸、特に建築資材については、引き続き堅調に推移している。人手不足感は業種によって異なるが、改善には至っていない。

<再生资源>

古紙市場は、市中発生量がやや上向きかけているが、国内需要が低下から縮小均衡が続いている。今後は国内景況が好転し、紙、板紙の国内需要、生産が増加に転じていくことを期待したい。鉄・非鉄金属も価格の下げ、発生減が長期化しており、依然低調である。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

前年度、消費税増税の影響で売上減の為、4月は前年同月を上回ったが、本来の売上に戻ったにすぎない。3月は、新生活で需要があったが、3月に比較すると売上来店客数ともに約一割減となった。

(県中地区のNショッピングセンター)

消費税増税も一回りして売上はだいぶ回復傾向にあるものの、前年同月比100%はクリアできていない。震災後の復興需要も落ち着いてきたことから、プラスアルファの売上も期待できなくなっている。

<石油>

元売仕切価格が上昇しているにも関わらず、小売価格は下落となっている。燃料油の販売不振も重なり、厳しい経営状況が続く結果となった。

<青果>

4月に入り気温も上昇するかと思われたが、東京都心で桜の時期に雪やみぞれが降る異常な天候で低温となった影響で、品物が不足、単価が高騰し取引の額は増加となった。山菜についてはまだまだ出荷制限がかかっているもの、停止となっているものが未だ多くある。会津の観光は桜の開花がちょうど桜まつりと重なり、観光客は増加したようだ。

<電機>

夏場に向けエアコンを始め、白物家電に期待したい。6月、7月に向け合展、個展があり、好転に向かうよう期待したい。

商店街

<福島市>

待望のデスティネーションキャンペーンが開幕したが、あいにくの低温・雨模様により、期待していたような集客にはならなかったという印象。春の花見山には、今年も多くのお客様においでいただいたようだが、クルマでの観光が8割を占めている現状では、花見山の観光客を中心商店街へと呼び込むことは、今年も難しかったようだ。JRや駅前の駐車場を利用する観光客を、いかに滞留させるか、それが課題である。

<郡山市>

新年度に入り変化を期待したが、先月までの悪い流れが続いているような感じであった。4月は大きな催事や目玉のイベントもなく、淡々と日々が過ぎていった。5月から6月にかけては、北海道物産展を始め催事やイベントが多いので、なんとか盛り上がりてくれればと願う。

<南相馬市>

連休の疲れもあり、低調。イベントの予定もなく、厳しい状況が続いている。

<会津若松市>

天候が回復してからは春物の動きが良くなった。後半、連休前あたりから暑い日が続いて観光客が多く見られた。

<いわき市>

前半は天候不順が続き、各業種ともに前年割れしそうな様子で、3月に引き続き悪いムードが漂っていたが、後半から天候に恵まれ暖かい日が続いたおかげで、なんとか前年並み、または上回った店舗が多かったようだ。ただ、昨年は消費税増税の影響で数字を落としているため、喜んではいけない。天候が良ければ街を歩くお客様は増える。5月は五月晴れが続くことを祈る。

サービス業

<クリーニング>

4月となれば繁忙期の期待もあるが、動きはいたって静かであった。

<旅館業>

(土湯温泉)

4月はふくしまデスティネーションキャンペーンや全県での観光イベント「コードF5」の効果により、土日は温泉街が賑わった。一方、吾妻山の火山活動や蔵王、箱根の火山活動の風評被害が、放射能の風評被害と重なってしまうことに対して、非常に不安を感じている。5月の連休には、吾妻山の通行止めだけで11件のキャンセルが発生した。

<理容業>

天候にも恵まれ、全体的にまずまずの状況のようだ。どの地域も際立った忙しさは来なかったようで、例年通りの状況のようだ。前半の花見のころと、後半の夏日が続いたころから大型連休で出かける準備もあるようで、客足は少し増えているが、その分5月初めが暇になるだろうし、理容にはデスティネーションキャンペーンの効果もないだろうし、何か私たちにも効果のあるキャンペーンがほしいものだ。

<廃棄物収集運搬業>

新年度に入って市からの受注も前年度より増加した。今後は震災関連事業の減少が予想される(災害仮設住宅関連の保守点検業務等)。

水準として震災前程度になっていると思われる。

建設業

<建設業>

(県一円)

県内全体の復興需要等の業況において、南会津地方振興局管内は新潟・福島豪雨災害がほぼ完了したことなどから弱含みである。

(県南地区)

除染業務は継続しているが、年度末に土木工事が完了しているため、手持ち工事が減少している。建築工事は新たな発注が少ない。全体として除染業務のウエイトがかなり高くなっている。フレコンバッグなどの除染用資材は不足していない。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも減少。前年同月対比で給水設備申請が増加、排水設備申請は減少している。

<専門工事>

急激に暖かくなり、GW前だというのに桜の開花が北海道に到達した。福島県内でも30度を超える気温を計測し、例年になく暑い1年を予感させる。株価が2万円の大台に到達したこともあり、全体的には「堅

調」というのかもしれないが、建築業界を中心に先行きの不安が顕在化しつつある。仕事がないわけでもない、利益がないわけでもない。しかし、今までが堅実な仕事の結果としての数値ではないことがわかっていく上に、これからは上向きになる気配が感じられない。まるで、バブル経済が破綻した時に響いていた足音のようだ。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

例年4月、5月は稼働日数が少なく売上は減少するが収益は確保している。しかし4月中旬から燃料価格が上昇しており、今後も上昇が続く見通しであるため、収益面は厳しい状況が予想される。更には、監督官庁によるコンプライアンス遵守の行政指導も強化されており、その対応による収益面への影響も懸念している。

<ハイヤータクシー>

今年の桜は例年よりも早く咲き、咲いてからは雨の日が続くなど、天候の影響が減少の一因になったかと思われる。

県政トピックス

2015.6

募集 『中小企業等復旧・復興支援事業』 補助金

東日本大震災及び原子力発電所事故により被害を受けた県内中小企業者等の皆様に事業再開に必要な経費の一部を補助する制度です。

◆受付期間 平成27年6月1日(月)～平成27年7月10日(金)

◆補助内容

A 空き工場・空き店舗等による事業再開支援事業

●対象者

- ① 避難指示区域等で被災した事業者、津波被災者のうち区画整理事業等が遅れ未だ移転できない事業者
- ② 上記津波被災者のうち、半壊の事業者
- ③ 上記以外の津波被災者、地震被災者のうち自己所有、赤字経営の事業者

●補助率 ① 3/4以内、② 1/2以内、③ 1/6以内

B 工場・店舗等再生支援事業

●対象者

自ら所有する工場・店舗等が被災したため建て替え又は修繕して事業再開・継続する中小企業者

●補助率 1/3以内

◆問い合わせ先 県庁企業立地課 ☎024(521)7280

HP

福島県 中小企業等

で

検索